

情報機密第一八六號

昭和十五年七月二十六日

別紙添付

在 瑯 春

領 事 木 内 忠 雄

在滿洲國

特命全權大使 梅 津 善治郎 殿

金日成匪團ノ内部狀況ニ關スル件

本件ニ關シ聞息省警務廳ニ於テハ豫テ省内匪團ノ崩壞工作ニ努メツ、アル處其ノ一方法トシテ客年八月金日成匪團員妻女池順玉(鮮人)ナル者ヲ獲得シ之ヲ同匪團中ニ派遣セルカ最近歸來セル同女ノ供述ニ係ル匪團内部狀況及派遣前後ノ事情等別紙調書ノ通ナル趣ニ付何等御參考迄御査閱相成度此段報告申進ス

本信寫送附先

外務大臣、在滿各公館長

金日成匪團内部狀況

一、被派遣者

被派遣者住所氏名

本 籍 咸北鏡城郡上下面錦長洞
住 所 延吉縣平安村石井屯

池 順 玉 (鮮女)

當 二十三年

二、被派遣者ノ家族關係

父	姜 某	七	當五十七年
母	金 某		當五十七年
兄	姜 鍾 錫		當三十二年
兄ノ妻	朴 某		當二十五年
兄ノ長男	姜 道 鉉		當 二 年
兄ノ弟	姜 正 錫		當 十八年
夫	姜 興 錫		當二十五年

(金日成匪團ニ在リ)

3. 資産程度

土地 二十割 家屋 一棟 牛 二頭

4. 被派遣者ノ夫

池頭玉ノ夫姜與錫ハ後ニ述フルカ如ク金日成ノ匪園ニ在リ前田中殿ト父戰中國時テ重傷ヲ負ヒ目下不詳山中病院ニ於テ治療中ナリ身長五尺二寸位、丸頭、丸刈、目耳鼻普通得徴ナシ

5. 被派遣者ノ性格來歴其ノ他

性質快活ニシテ判断力ニ富ム索行普通咸北鐘城ニ出生十三ノ時同地普通學校四年ヲ卒業其後自宅ニ於テ漢學ノ造詣深キ故父ニ付漢學ヲ習得十四才ノ正月頃現在住所ニ父母ト共ニ移住同年春夫姜與錫ト結婚其後夫投匪後ハ夫ノ父母ト共ニ營農中ナリシモノナリ本名ハ漢學ニ造詣深ク日語ヲ解スルモ日常使用セス

ニ派遣ノ動機

昨六年六月二十五日咸北三長警察署ニ於テ檢舉セラレタル金日成匪軍率金後(詳當三十二年)ヲ特務科係員ヲシテ取調セシメタル結果前記姜與錫ノ家族カ皆下延吉縣平安村ニ居住シ居ルコト判明シタルヲ以テ内務ス

前記家族關係並ニ姜與錫ハ九年前池頭玉(當時十四才)ト結婚シ前日ヲ出テスシテ投匪セルモノニシテ(當時姜與錫ハ十六才)約三年前迄ハ時々連絡アリタルモ其ノ後全ク消息ナク歲月ヲ經ルニ從ヒ頭玉ハ夫黨ハシサニ時折ハ家庭ノ不相サヘ生シツツアル旨ヲ聞知シタルヲ以テ種々工作ノ結果積極的ニ入山ヲ決ヤシムルニ至リタリ

三派遣ノ狀況

ノ指令ノ内容

- (1) 姜與錫ノ獲得ニヨル内務分製工作
- (2) 幹部ノ毒殺
- (3) 匪ノ取調ニ對シテハ父母ノ強要ニ依リ夫々商會ノ爲メ入山セルモノナルコトヲ告クルコト

2. 連絡ノ方法

本名並ニ本名ノ獲得ナル匪働人物ニ於テ特務科片田警佐或ハ商會尉ニ直接連絡スルコト

3. 入山日時及場所

父兄ニ對シ本工作ヲ承諾ヤシメ八月五日ヨリ同九日迄五日間延吉ニ於テ

本名ニ對シ各種必要智識ニ努メ八月十日係員同行匪ノ潜伏地ト目セラ
ル和龍縣五河洞西南方一〇八八高地並ニ西方依蘭溝方面ニ目標ヲ直キ
八月八日午后十時金日成王力部隊一二〇名カ和龍縣龍澤村ヲ襲撃シ西
方密林地帯ニ逃走シタルニ依リ斯ク判斷セリ入山セシメタリ
ハ歸來豫定

不明ナルモ概ネ二三箇月ヲ要スル見込
入匪中ノ狀況

康徳六年八月中旬安陽縣紅旗河上流地點ニ於テ金日成匪第七團長兵仲
吟以下約三〇名ニ遭遇セルヲ以テ來意ヲ急クレハ本名同行ヲ部下ニ命
シ同匪ト共ニ安陽縣花拉子附近ニ移動同地ニ於テ一五〇名ノ金日成匪
主力ト合シ本冬ハ直等金日成ヨリ四日間ニ亘リ調査セラル此ノ際身體
検査ノ爲メ着用中ノ鮮服ヲ脱カシメ織目ヲ全部解キ袴部分ヲ検査セラ
レシヲ以テ携行ヤシメタル劇樂露見シ遂ニ沒收セラル

2. 同月下旬金日成指揮ノ下ニ部隊ハ和龍縣枕峰ノ(安和縣境和龍縣三道
溝西北方)密林中ニ移動シ和龍縣三道溝方面部落ヲ目標トスル爲メ工
作中間縣牛心山附近居住滿人聚衆ヲ某ヲ拉致ノ上家族ヲ脅迫衣食ノ入

手容易トナレルヲ以テ金日成ハ之ニ依リ次期工作ノ準備ヲ爲サムコトヲ計
畫セルモノノ如ク數日ヲ經スシテ三十二名ノ婦女ヲ集合シテ前記利某ノ家
族ヨリ次々ニ日地ノ綿布ヲ提供セシメ之ヲ黃色ノ染料ヲ利用染色ノ上足踏
式ミシン四臺手廻式ミシン二臺ニテ末張ヨリ夜半迄作業セシメ製作品ハ何
レモ自衛團類似服ニシテ毎日武裝隊員カ何レニカ選擇シ居リタリ兩地ニケ
月余滯在中約一〇〇〇着ノ夏冬服ヲ作成ス
石裁縫ニ從事セル婦女ハ第二方面軍金日成第三方面軍職幹章、張寶等ノ部
隊ニ屬スル者ニシテ本名ノ記憶ヲ辿リテ列記スレハ左ノ如シ

氏名	生年	出身地	家族の有無
主任 金 剛 一十九年	一十九年	新吉野町(桐生市) (幸家八回町(成通))	有
林 貞 淑 二十五年	二十五年	新吉野町	不明
岩 仁 淑 二十四年	二十四年	新吉野町(依藤藩)	父母死亡
○ 全 進 十九年	十九年	不明	無
○ 仁 善 二十二年	二十二年	不明	無
岩 賢 淑 二十二年	二十二年	和歌山縣光南村(二吉浦)	有
韓 元 化 二十年位	二十年位	不明	不明
○ 九 二 五 年 位	九 二 五 年 位	不明	不明
○ 貞 賢 二十七年	二十七年	不明	不明
全 順 烈 二十年	二十年	不明	不明

以下氏々不詳

石裁縫部員等ハ或ハ作食隊トモ稱シ交互ニ匪團ノ炊事ヲモ兼ネ居リタルモノナルカ同年十一月上旬同遊路ヲ討伐隊ニ襲撃サレ安陸縣ニ移動セルカ此ノ際三十二名ノ婦女隊ハ何レニカ遠行サレ本名ハ朴貞淑、金順烈ノ三名ト共ニ第七團附ノ作食隊員ト爲リ第八團ニハ○仁善、岩仁淑、○全善ノ三名配置セラレタリ

3. 同年十一月中旬安和警備道路作業現場ヲ襲撃後花子附近ニ於テ討伐隊ノ勳辭ヲ窮ヒ金堤屯 大坡ヲ襲撃シ妙顯山附近ヲ通過後樂旬縣ニ移動シ各地ヲ遊動ス

4. 同年十月中旬教化縣ニ移動シ同縣六合松森林材採場ヲ襲撃同戰鬥ニ於テ第七團長吳仲哈同團運糧員日賢同團附輕機副射手「氏名不詳」第八團第一連長商人某其他隊員四名計八名射殺セラレタルカ其後(康徳七年二月)警備連長吳白龍第七團長トナリ指揮シ居レリ

5. 康徳七年一月中旬長白縣ニ移動シ同縣各部落襲撃ヲ爲セルモ意ノ如クナラス再ヒ同二月上旬北上、安陸縣兩江口西南方地區ニ移動セルカ其後ハ討伐隊ニ急追セラレ逃走中花子ニ於テ材木伐採人夫小屋ヲ襲ヒ續イテ紅旗河(林森警備隊、前田討伐隊、手草溝東南迄、二道屯、萬賢河、三道

撫依、十騎街、其他、安圖、延吉、和龍縣境第一、二線部落數ヶ所ヲ襲撃ス

6 六月中旬安圖縣馬鞍山方面ニ於テ第一路軍參謀韓仁和ノ指揮スル部隊約

八十名ト合流シ延吉縣長仁江部隊續イテ安圖縣西豐屯ヲ襲撃シ分散ス

7 六月下旬金日成主力ハ八團ト合流ノ上延吉縣倒木嶺方面移動ス

8 六月二十八日第七團ハ金日成ノ命ニ依リ延吉縣山屯西嶺南方密林中ヨリ

金日成主力ノ移動方向ニ向ヒ移動中第一路軍總指揮部ヨリ來レル部員

益涿ノ命ニ依リ歸還ヲ命セラル

9 康徳七年六月上旬第二方面軍指揮部金醫官以下一七名及同軍醫衛連等ヲ

合セ約四十名ヲ以テ第二方面軍第九團ト稱シ時々金醫官之ヲ指揮シ居レ

ルカ團長ノ氏名ハ不詳ナリ

10 本名ハ本年三月紅旗河森林警察隊襲撃時殺セル同林場従業員日人及五

月二十三日安圖縣西豐屯附近ニ於テ電線修理中ノ電工ヲ襲撃時殺セル

關島省公署員日人佐藤等ニ對シ金日成ノ命ニ依リ送還ヲ爲ス

11 本名ハ入匪後夫ト行動ヲ共ニスルコトヲ許サレス之カ爲メ本名第七團記

號ト同時ニ第七團ニアリシ夫ハ第八團ニ轉シタリ其後表頭ノ結果本年二

月ニ至リ漸ク對面ヲ許サレタルカ之トテ約三十米ノ距離ヲ置キ幹部監視下
ニ二三ノ談話ヲ爲シタルニ過キス爾來夫ト會見セルコトナシ

12 本名歸來前ニ於ケル第二方面軍第七團ノ編成別表ノ如シ

五 歸來狀況

康徳七年六月二十五日延吉縣孟山屯西南方約二里（一一二五高地）ニ於テ
第七團ト行動中第一路軍總指揮部ヨリ來レル同部員韓益涿ノ命ニ依リ部隊
ハ近ク遠方ニ移動スルニ付虛弱者ハ下山セシムトテ當時拉致中ノ滿人二名
韓人三名ヲ釋放スルト共ニ本名ニモ下山ヲ命シ第四選長指導員朴益涿ハ本
名ヲ孟山屯附近迄同行ノ上再ヒ入山セルカ本名ハ下山途中同日午前十一時
頃孟山屯西方二軒ノ地點ニ於テ同屯自衛團員ニ發見行セラレ歸來スルコト
ヲ得タリ尙本名放逐ノ際滿匪三名ノ虛弱者ヲ放逐セシ模様ナルモ人相其他
不明ニシテ同人等ハ或ハ五道場方面ニ向ヒタルニ非スヤト認メラル

六 匪團ノ内部狀況

1 匪團結狀況

(1) 鮮滿別内部區結情況

幹部ハ案ヨリ隊員ノ大部分ハ所謂關島共產黨以來ノ革命闘士ナレハ隊

内ニ於ケル民族的差別的觀念ナク鮮滿人隊員ハ恰モ一心同体ノ如キ團結ヲ爲シ革命工作ノ成功ヲ祈念シアリタルカ今次討伐開始以來一般ニ動搖ノ傾向アリ鮮人隊員ハ末タ比較的團結シ居ルモ滿人隊員ハ討伐進撃ニ恐シ浮激性多分ニアリ

(2) 匪幹部對團員

幹部ハ何レモ主義思想濃厚ニシテ終始革命成功勝利ヘノ努力ニ熱中シアルヲ以テ隊員ハ自然之ニ魁セラレ勢ヒ幹部ヲ信賴スルニ至リ各種命令ニ總体ニ服従シ居レルヲ以テ諱工作ノ實行比較的容易ナリ然レ共團員ノ幹部ニ對スル服従ト團結ハ反面幹部ノ監視嚴重ニ起因スルモノニシテ幹部ノ士氣一度崩壞ヤンカ隊員ハ四散滅裂スルコト明ナル實情ニアリ

(3) 隊員團結ニ對シ幹部ノ執リアル方法

今期討伐開始前迄ハ幹部對隊員間ノ階級意識相當アリタルモ討伐開始以來幹部ハ隊員ノ動搖防止ニ腐心シ下級者ノ差別的取扱ヲ避ケ共同協議ヲ採用スル等上下一体制ヲ執リ隊員ノ壞染策ニ專念シアリ

幹部ニ常ニ隊員ニ對シ革命同志ハ凡有困苦缺乏ニ耐ヘ犧牲的精神ヲ以テ困難ヲ打開スルコトコソ抗日戰線最後ノ勝利ヲ得ルモノナリトシ之カ爲

メニハ團結心カ第一テアル一人ノ失敗ハ我カ革命軍全体ノ敗退ナリヨシ擊ニ際シ或ハ各種工作ニ於テ積極性ナキ者ニ對シテハ宿營地ニ於テ隊員全部ノ面前ニ呼出シ「自己ノ失敗ヲ自分ニ於テ反省批評セヨ」トノ詰問ヲ爲シ之ヲ一般ニ公開應取セシムルト共ニ當人ノ自己批評ニ檢討ヲ加ヘ將來ヲ戒告スルト同時ニ他ヲ反省セシメアリ

2. 共產主義ニ對スル認識程度

(1) 一般隊員

一般隊員中革命運動斗争イ古キ經驗者ハ主義思想濃厚ナルモノアリテ「ソビエート」國家ヲ謳歌シアルモノ大部分ハ民族主義思想ヨリ出テル救國即チ祖國復興ヲ夢想シツツ抗日運動ニ狂奔シアルモノナリ

(2) 幹部

幹部ハ何レモ頭初民族運動ヨリ抗日ヲ標榜シアリタルモノアルカ「コミンテン」ノ在滿抗日匪團ノ使喚ニヨリ幹部ノ入蘇或ハ指導員交通員等ノ宣傳スル處トナリ遂ニ共產主義者ノ唱ヘル反帝主義ト民族主義者ノ唱フル反日思想ト渾然疎通ノ結果勢ヒ共產主義ニ共鳴スルニ至リ現在ニ於テハ極メテ濃厚ナル民族的共產主義思想ヲ拘持シ居レリ

幹部ノ隊員ニ對スル主義宣傳方法
個人ニ對スル宣傳ト團體宣傳トノ二種ヲ以テ行フ
個人ニ對スル方法ハ或ハ休憩時或ハ宿營中隨時附近ニアル隊員ニ對シ該
目的ニ共產主義ノ宣傳ヲ行フ又隊員中能筆者ニハ第一師團司令部黨部ヨリ
ヲ送付シ來レル傳單或ハ「政治讀本」「三一月刑」「レーニン旗」ノ一部
ヲ筆記セシメ主義思想向上ニ努ム

團體的宣傳ハ月二、三回雨天又ハ休養中政治指導員之ニ當ル之カ方法ハ
前記傳單紙ノ外「中報」等ヲ讀解シ或ハ時局問題ヲ折込ミ或ハ各職工
作ノ討論研究ヲ爲ス等之ニ要スルニ短キハ一時間長キハ三時間ニ及フ主
義宣傳ノ要旨ハ概ネ次ノ如シ

「我等ハ無産階級ノ労働者タル中韓民衆ヲ以テ組織シタル革命軍テアル
共產主義國家「ソビエト」ハ革命以來國民全部ハ何レモ幸福トナリツ
ツアルカ日帝國家ヲ見ヨ無産者ハ資本家ニ取セラレ軍閥野蠻ニ強制的
ニ動かサレアリ我租國韓國モ亦之カ施政下ニアル爲メ同様ノ苦境ニアリ
テ日夜ノ同胞ハ我等ノ救ヲ求メテ居ル日帝ハ更ニ腕手ヲ伸シ滿洲ヲ
奪取シ中國ヲモ攻占シソツツアリテ中韓民衆ハ同一ノ運命ニアリ此ノ苦境ヨ

リ中韓人ヲ救済スル爲メニハ我等ノ尊キ先覺者ノ組織セル軍隊ヨリ外ニ
ナイノテアル

日帝ノ前途ハ風前ノ燈火ナリ我等ハ今此ノ苦境ヲ脱出シテコソ十歳ニ亘
ル斗争ノ勝利成果ヲ得ルト共ニ東亞ニ紅旗ヲ擧ケ祖國ヲ救ヒ先登ニ報ユ
ルコトノ出來ル崇高ナル聖業ナリ苦シキ時ハ我等カ背後ニ祖國ノ民衆
アルコトヲ想起セヨ然ラハ如何ナル難事モ克服シ得ンム

尙客秋和龍縣就峰附近ニ遊蕩シ該地作業中ハ該縣隊長主任、金銀原力派ニ
二、三回約三十分共產主義ノ宣傳ニ努ムルノ外經略隊ノ隊員日ノ由己
ノ行爲カ反共的觀念ヨリ出テタル行爲ニ非ラサリシカラ反省矯正セシム
ルノ外月二、三回遊蕩隊ヨリ泡鳳等ナルモノ來リ女隊員思想動向ヲ主任
ヨリ攝取シタル傳單一時隊員主義宣傳ヲ爲シアリタリ

外圍ト蘇聯トノ關係
(1) 連絡方法

其ノ連絡ハ知悉ヲ得サルモ康徳六年十月十一日金日成總力を龍縣三道
邊西北方枕邊察察中ニ遊蕩中共匪ト同一ノ服裝ヲ着シ拳銃ヲ携帯セル
蘇聯亞人八名カ亞人二名ノ遊蕩ト共ニ金日成ヲ來訪要談セルカ其際

要幹部以外ハ何レモ務ニ寄セ付ケス約十日間滞在ノ後全日蘇聯軍中ノ要
者十二名ヲ同行退去シタル事實アリ幹部ノ作食隊員ニ語レル處ニ依レハ
蘇西亞人ハ蘇聯ヨリ連絡員トシテ來レルモノナリト右ハ三江管又ハ東部
蘇國境方面ヨリ來レルモノナルカ或ハ「ハルビン」中國方面ヨリ來レル
ノナルカ詳細不明ナルモ直接蘇聯ヨリ重要使命ヲ帶ヒ連絡ニ來レルモノ
非スヤト認メラル

(2) 蘇聯ノ援匪工作

毎日一回若シクハ二ヶ月一回ハ必ス新製藥ノ配給アルカ該藥ハ蘇
外僑ニ英文四文字ヲ以テ發レル符號アリ之ハ在來製若シクハ日本製ニ非サ
ル點ヨリ見テ蘇聯ヨリ直接配送シ居ルニ非スヤト思料セラル其ノ結果及其
他ノ援匪工作ニ就テハ詳細不明ナルカ第一路軍内ニアル黨派ニハ中共黨並
ニ蘇聯浦監分派機關ヨリ何等カノ方法ヲ以テ脈絡アルモノト思料セラル

5. 蘇國ノ最モ困難シアル點

最モ困難シアルハ治本工作ノ徹底ニヨル物資難ナリ殊ニ地下足袋ト糧秣ハ
最モ困却シ居レルモノナリ討伐隊ニ猛追セラレ一日ヨク十數里ノ峻路ヲ行
動スルニ地下足袋ハ缺クヘカラサルモノナルカ現在殆ト使用ニ耐ヘス迄

離ノ移動ニスラ困却シアリ又糧秣ハ隱匿セルモノナク部落襲撃ニ依リ漸
ク二三日間分ヲ得ルノミニシテ缺乏ノ際ハ雜草ヲ以テ代用食ト爲シ居レ
リ激動區域トセル安和縣下ハ最近頗ニ治本工作強化セラレ之カ爲メ匪團
ノ活動意ノ如クナラサルヲ以テ近ク北方地區ニ移動セント企圖シ居レル
モ地下足袋不良ナル爲メ歩行困難ニシテ實現不可能ナリサレハ之カ打開
策トシテ明安道路輸送ノ貨物自動車襲撃ヲ企圖シアリ

6. 匪ノ物資工作

(1) 糧食ハ討伐開始前迄ハ部落ノ襲撃被拉致者ノ家族ニ對スル物資迫或ハ屯
長、部落長等ノ利用地下工作網ノ積極的活動等ニ依リテ入手容易ナリ
シカ討伐開始後ハ部落襲撃以外ユ入手ノ方法ナク大部隊ノ行動ハ食糧
工作不利トナリ小部隊ニ分散僅ニ農民等ノ耕作ニ携行セル糧食ヲ強奪
スル等ノ方法ヲ執リツツアリ

(2) 衣類穿物ハ蘇聯六年八月安和縣境附近ニ駐蹕當時和龍縣三道溝牛心山
附近部落居住滿人聚農利某ヲ拉致シ之カ家族ヨリ多量ノ服地穿物糧秣
等ヲ提供ヤシメ最近迄何等支障ナカリシモ最近ニ至リ衣類入手方法ナ
ク部落或ハ工事作業場ノ襲撃等ノ際掠奪スルノミニシテ之トナテ究分ナ

ス之カ對策ニ關心シアリ

(3) 彈藥

軍醫或ハ自衛團ト交戦時偶々入手スルモノナルカ新ノ外ニモ前述ノ如ク
蘇聯ヨリ補給サレアルモノニ非サヤト認メラル

7. 逃匪ノ情況

討伐前迄ハ彈藥採取人夫、炭燒人夫、竊伐木業者等ヲ利用セル外人質拉
致ニヨル家族ノ利用又ハ政治委員等ノ指導ニヨル屯長、甲長、部落長及
歸順者ヲ逆用シ後援組織体ヲ以テ之ニ當ラシメアリタルカ討伐開始後ハ
部落警備ノ強化入山者ノ取締徹底、通匪網ノ破摧等ニ依リ連絡不能トナ
レルヲ以テ現在ニテハ僅カニ特務隊員カ下山シ農耕人夫等ヲ利用セント
スルニ過キス

8. 匪ノ督戰方法

積極性ヲ缺ク者ニ對シテハ前述ノ如ク隊全員ノ面前ニ於テ批評ヲ加フル
ト共ニ左記賞金制度ヲ設ケ其ノ活動ヲ大イニ奮勵ス

輕機 一ヲ檢奪サルモノニ對シ 一〇〇圓
小銃 一

二圓

彈藥 一〇〇發

人質拉致 一〇名

討伐隊長ヲ戰死セシメタルモノニ對シ

一、〇〇〇圓

9. 匪ノ内部破壊ニ適當ナル方法

第二方面ノ士氣旺盛ニシテ團結力アルハ軍指揮金日成カ猛烈ナル民族的
共產主義思想ヲ拘持シ且ツ頑健ト統制ノ妙ヲ有シ居ルニ依ルモノナリ故
ニ之カ内部破壊ニハ特ニ金日成ヲ再起不能ナラシムル方法ヲ執ルコト肝
要ナリ之カ直接的方法トシテハ金日成部隊員ノ家族歸順者(同一系統ノ
モノ)ヲ利用シ隊員及其他ノ幹部ニ連絡ヲ執リ幹部對金日成トノ諷問策
ヲ講スルヲ可トス

間接的方法トシテハ部落警防入山者ノ取締、逃匪者ノ捕獲ヲ嚴ニシ一粒
ノ糞林ト雖モ之ヲ與ヘサルコト特ニ部落襲撃ヲ爲ス場合ハ殆ト糞林ノ缺
乏セル時期ニシテ行軍不能ナレハ追撃ヲ急ニシ果敢ナル討伐ヲ行ヒ以テ
隊内ヲ動搖セシムルニアリ

10. 匪團ノ相互連絡方法

匪團ノ相互連絡ニハ殆ト交通員(通信員)ヲ以テ之ニ充テ居レリモシ連

絡セントスル部隊ノ所在不明ナル時ハ枯木ヲ叩キ其ノ音ニ依リ合點ト爲ス又交通員ノ歸還前部隊ヲ移動スルトキハ焚火ノ灰ニ暗號ヲ記シ移動セ先及用語ヲ傳フ隊員ノ合點ニハ左ノ合言葉ヲ使用ス

「工」作「陰」天

「運」絡「前」進

「分」工「防」空

11. 匪ノ生活状態

夏期ハ午前三時―四時冬期ハ五時―六時何レモ未明ニ起床シ直ニ點検ヲ受ケ流水ノアル時ハ洗面後朝食ニカカル此ノ間約一時間食畢後八時ニ一日ノ勤務ヲ割當テラル之ヨリ先作食隊員(女)ハ一殺隊員ヨリ一時間前起床シ朝食ノ準備ヲ爲ス晝食ハ概ネ正午夕食ハ午後六時頃取り夜間幹部ハ中央ノ大幕内ニ於テ一日ノ行動ニ對シ對談シ特務班員ヨリノ報告ニ檢許ヲ爲シ此ノ凶隊員ハ衣服ノ手入或ハ雨後ノ行動準備ヲ爲シ概ネ九時頃ニ就寝ス長期滞在ノ時ハ交互ニ食糧工作ニ出勤シ他部落トノ連絡ヲ爲ル作食隊員トシテ取扱ヒタル經驗ヨリ匪一人一日分ノ食糧ハ平均七合ヲ要ス

12. 匪團ノ情報蒐集方法

特務員トシテ匪部ニ屬スル者六七名アルカ之等ハ主トシテ衣服ヲ纏ヒ在來頻繁ナル道路ニ出テ或ハ出人頻繁ニシテ比較的檢問檢索ノ容易ナル部落ニ潜入シ情報ノ蒐集ヲ爲ス
其他隊員ノ四分ノ一位便衣ヲ着用シ部落附近ニ查リ食糧工作ヲ兼ネ情報蒐集ニ當ル

部落或ハ作業場變遷前ハ必ス附近ニアル部落民ヲ拉致シ取調ノ結果變遷有利ト認メタル場合ハ直ニ之ヲ實行ス拉致不能ナル時或ハ糧食ニ困窮セル時ニ隊員中ヨリ健脚者ヲ選ヒ先發セシメ變遷可否ヲ調査セシメタル後實行ス

其他特務班員ハ新聞雜誌ノ入手黨部發行機關紙記事ノ材料蒐集宣傳文用紙ノ入手等ニ關シ政治指導ヨリ直接命令ヲ受ケ之ニ專從シアルモ其ノ内容詳細知得スルコト容易ナラス

13. 今後ノ活動範圍

(1) 金日成匪團カ目前ノ活動區域ヲ安慶ハ和龍縣ト爲シ居レルハ安慶縣ハ部落ノ分布カ帯ノ如キ地域内ニアリナ其ノ兩側ニ千古ヲ入レサル大

密杯碗城トシテ連リ和龍縣西部地區又之ト略同一ノ地形ニアリ該地域ハ部落變遷後討伐隊ニ追ハルルモ姿ヲ没スルニ容易ナリ一方人ヲ目標トスル人的工作ニハ北鮮ニ接近シ居レルヲ最良ノ地域トシテ選定セシモノナルカ爾方面ノ治本工作ノ徹底ト事實上貯穀少シト見タル金日成ハ安陽縣ト地形ノ近似セル汪清縣北東部、汪敦、汪寧縣境附近ニ移動スルモノニ非サヤト認メラル

- (2) 治本工作ノ徹底ト相俟チテ糧秣衣服ノ入手困難ニ依リ匪ハ蓄備薄キ輸送途中物奪ヲ變フコトヲ企圖シアリ
- (3) 討伐地域内ノ蹊路ハ隊内動搖ノ要因ニモナレハ將來ノ漸次新活動地域ヲ求メ移動セン
- (4) 治本、治標工作ノ進展ト共ニ匪團ノ工作目標ハ背後都市ニ重點ヲ指向シ漸次大小都市ニ分散潛入スルニ至ラン
- (5) 行動愈々困難ニ至ラハ蘇聯遁入ヲ計ルヤモ知レズ
- (6) 漢賢、金日成部隊等ノ婦女三十二名アリ之等以外ニ保護部隊即チ非武装民衆モ二三十名ヲ領導シアル模様ナレハ糧道廣斷ノ徹底ハ大空杯中ニ於ケル各種作物ノ密作ヲ豫想セラル

一、所見並ニ處置

1. 所見

(1) 本名ノ供洩ハ現下ノ各種情勢ヲ照シ理路井然トシテ一應首肯スルコトヲ得サレト本名ハ入山頭初毒藥ヲ隱匿携行セルヲ發見セラレタルニ不拘何等處刑ヲ受ケス一箇年餘ヲ匪團ト行動ヲ共ニシタルノミナラス無事放遣セラレタルハ或ハ匪ノ内意ヲ受ケ偽裝歸來シタルモノニ非サヤトモ思料セラレ今後ノ言動慎重注意ノ要アリ

蘇聯ノ援匪工作ニ關シテハ更ニ取調研究ヲ徹底セシムル要アリ殊ニ蘇聯製彈藥ノ有無ニ關シテハ慎重調査スルノ要アリ

2. 處置

(1) 池順玉ノ身柄ハ在安陽片田工作班長ニ引渡シ秘密ニ監視シツツ偽裝歸者トノ前提ノ下ニ懷柔ニ努メ補足的取調ヲ進ムルト共ニ特別工作ニ別ヤシメアリ